



祝

令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰

常葉幼稚園・小中学校運営協議会、田村市地域学校協働本部

令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞した、田村市地域学校協働本部（常葉幼稚園、小学校、中学校）の取組について紹介します。

～常葉幼稚園・小中学校運営協議会～

設置：令和2年6月26日

委員構成：12名

常葉幼小中 PTA 役員（現・元会長）
地域住民
常葉地域学校協働コーディネーター
幼稚園長・小中学校長
地域の有識者



《取組について》

◆「対話による信頼感向上のための熟議」を核にした学校運営協議会

- 年6回の協議会の中核に「熟議」を据え、学校教育目標や運営ビジョンについて、保護者、地域の方々と共に話し合う場を設定し、教育課程に反映している。
 - ・ 熟議の研修会
 - ・ ミニ熟議「子ども、家庭、地域のウェルビーイングの実現」
 - ・ 第1回熟議「常葉地区の子どもたち、学校、地域をどのように育てたいですか」
 - ・ 第2回熟議「子育てあるある」 他

◆ 支援する者、される者の両者が幸せになり、充足感が持てる地域学校協働活動

- 各ボランティア活動に参加される方が、また活動したいと思えるような環境作りの推進。特に各活動においてボランティアの支援を受けるだけでなく、各活動の事後に子どもからの感想や意見をフィードバックする機会を作ることで活動の広がりが子どもから提案され、支援を受けるだけでなく双方向の交流になっている。
 - ・ そば打ち体験から家庭科でのそば粉を使ったスイーツ作り
 - ・ そばの種まきから地域の名産エゴマ作りの提案
 - ・ 夏祭りの実施 等

◆ コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、幼小中一貫教育の三位一体的推進

- 幼小の架け橋プログラム、小中教員の乗り入れ授業、全国学力・学習状況調査の向上へつなげる授業研究会、小中合同行事等への学校運営協議会委員の参加機会を作り、現場での意見交換を教育課程の編成に役立てている。
- 熟議の場に常葉地区青少年健全育成市民会議のメンバーや常葉公民館の職員等の重要な地域関係者が参加していること、進捗状況について田村市地域学校協働本部のメンバーが視察に来る等の特徴的な取組について、他の中学校区へも活動の広がりを見せている。

《効果について》

- 熟議の継続的開催により、教師、保護者、地域の方々が「もっと、お互いの事を理解して子どもたちのためになることをしていきたい」などの感想が寄せられている。
- 常葉地区幼小連携、小中一貫教育の推進の両方に関して学校評価の項目に好影響が見られる。合同授業研究会の継続や共通道徳の実施による A 評価。
 - ・ 小学校 50% (R4) → 89.5% (R6) ・ 中学校 18.2% (R4) → 64.3% (R6)
- 常葉小学校では、多様な地域学校協働活動のボランティアの協力があり「夏祭り」を開催した。その際、全校児童（217名）の登校となり、現在も不登校児童0名が続いている。





令和6年度優良PTA 文部科学大臣表彰



須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会

令和6年度優良 PTA 文部科学大臣表彰を受賞した、須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会の取組について紹介します。

～須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会～

会員加入率 100%

令和2年度に会の効率化を図り、より実効性のある組織とするために、教育活動後援会という名称に変更



《活動の特色・取組について》

○ 会員総意のもとで活動をおこなうための工夫

会長、三役を中心に「学校と家庭、地域をつなぎ、子どもたちの健やかな成長のために」を目的とし、企画から運営まですべてにおいて、学校職員任せではない主体的な活動を進めています。

○ 子どもたちのための自主的な PTA 主催活動の展開「逃走中西一小」

教育後援会主催行事として、「逃走中西一小」を行ってきました。逃走中で行うミッションを考えた、大道具や小道具を作ったりして、子どもたちの笑顔のためにアイデアを出し合いながら企画運営をしました。また、今年度は秋祭りを実施しました。近隣の西袋第二小学校 PTA と協力し 2 校合同で行いました。役員以外からも運営スタッフとして多くの方が携わりました。教育後援会の会員や、西袋中学校のジュニアボランティアです。中学校区にある関係者団体が連携して会を運営しており、相互の親睦を深めるよい機会となりました。

○ 子どもたちの安全確保のための自主活動

登下校において、子どもを守る委員会を中心に、役割分担をして月一回、交差点で立哨指導を行ってきました。今年度は専門委員会を廃止し、教育活動後援会からボランティアを募り、40名近い会員が、登下校時の見守りを行っています。地域の方も一緒に活動していただくなど、活動の輪が少しずつ広がってきています。



令和6年度「いしかわWORK&LIFE教育」成果発表会

in 福島県立石川高等学校



石川高校
キャラクター
「菜乃」



1月24日(金)に石川高等学校で行われた「いしかわWORK&LIFE 成果発表会」について紹介します。石川高等学校では、「地域に貢献できる人材の育成」を目的に、望ましい職業観・勤労観の育成と進路適性の発見のための「キャリアチャレンジ」および、地域の人材と資源を活用した「総合的な探究の時間」を柱とした「いしかわWORK&LIFE教育」を実践しています。今年度は、キャリアチャレンジを選択した2年生が前期・後期それぞれに一事業所にて、3年生が通年で一事業所において実習をしました。また、総合的な探究の時間では、1年生は「地域を知る」、2年生は「地域で学ぶ」、3年生は「地域に貢献する」をテーマにそれぞれの探究活動を進めました。

生徒たちは、「一足先に仕事を体験でき社会人としてのマナーを学び自覚をもつことができた」「職業に向いているかどうか自己分析をすることができた」「自己有用感につながった」と、多様な体験をととした多くの学びを発表していました。

石川高等学校では、コミュニティ・スクールが導入され、幅広い地域住民や団体が学校と連携し、共通の目標やビジョンを目指した取組を行っています。さらには、地域や社会の参画・協力を促進することは、学校運営の改善やキャリア教育の推進、学校の魅力化、特色づくりにつながり、地域の産業界等との連携を強化することで、地域人材の育成・環流を図る仕組みを構築しています。

